



エンジニアの成長と挑戦が
CTCの未来を広げる



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
リテール&サービス事業グループ
和田 淳志

エンジニアとして 自分らしさを表現するためCTCへ

自分らしさをエンジニアとして表現したい、その想いを実現するために、私は2006年にCTCへ転職しました。前職ではWebアプリ開発に携わり、主に基本設計書に基づいて開発やテストを行う日々でした。しかし、経験を積むうちに「もっとこうすれば良くなるはずだ」という気づきが増え、エンジニアとしてもっと上流からプロジェクトに関わりたいという強い願望が芽生えました。2006年当時、CTCはSI事業の拡大に本腰を入れ始めており、会社が成長する中で、自分自身もその成長の一翼を担い、共に成長できると確信し、入社を決意しました。

自社開発をはじめ様々な案件の プロジェクトを担当

CTCに入社後、独自ソリューションである『EIMANAGER』^{※1}の立ち上げに参画し、プリセールスと顧客向けSI開発をプロジェクトリーダーとしてリードしました。要件定義から設計・開発、運用保守まで、全ての工程に関わりながら、関係者やお客様と直接対話し、より良い成果を追求していく。私が望んでいた上流工程からの関与は、想像以上に充実感があり、その後も様々な企業や様々なソリューションを用いたSI開発案件のプリセールスとプロジェクトマネージャを担当し、充実した日々を送っていました。しかし、さらなる成長を求めて、チャレンジしたいと考えていたBtoC領域の開発に携われる部署に異動し、コープデリ生活協同組合連合会（以下：コープデリ連合会）の総合アプリ構築プロジェクトへ参画する機会を得ました。

コープデリ連合会は宅配事業を中心に、実店舗の展開や共済・保険、エネルギーなど、組合員の生活を支える幅広いサービスを提供しています。近年では、対面でのコミュニケーションが難しい場面が増えたため、アプリを通じたデジタル接点の強化が最重要課題の一つとなっていました。そこで、ユーザビリティや目的が異なる複数のアプリを2つに集約し、組合員にとって分かりやすく、使いやすい形で提供する方針が打ち出されました。一つ目が宅配での買い物に特化したコープデリ宅配アプリであり、2つ目が実店舗での買い物の促進と、その他のサービスへの架け橋となる総合アプリ

です。CTCが両アプリの開発を担当しており、私は総合アプリ構築プロジェクトにプロジェクトマネージャとして携わっています。

ユーザーファーストの より良いUI/UXを追求

私はこれまでUI/UX^{※2}の最適化にこだわり続けてきました。私が担当してきたBtoBシステムでは、ユーザーが業務を効率化するため、迅速な操作性と効率的な業務プロセスへの導線が求められます。また、ユーザーが限定され、一度導入されると長期的な利用が前提です。しかし、BtoCの領域においては、全く異なる視点が求められます。広く一般消費者が利用するため、誰でも迷わず直感的に操作でき、短時間で目的を達成できることに加え、リピーターを増やすための要素や、ユーザーの感情に訴える体験を提供することも重要です。これらは、今回のプロジェクトで学んだ大きなポイントです。

今回のプロジェクトでは、今年2月にリリースされたコープデリ宅配アプリの成功事例を踏まえ、株式会社グッドパッチ（以下：グッドパッチ）^{※3}がデザインを、CTCが開発を担当する形で進行了。グッドパッチは、まず経営層や現場スタッフへのインタビューを重ね、コープデリ連合会としての「ありたい姿」を具体化。ターゲット層に提供したい体験をユーザーストーリーとしてまとめ、そこから機能要件を抽出しました。私もこのプロセスに伴走。既存アプリ機能の精査や関連システムの制約条件を洗い出し、3社共同でデザインや機能の具体化を進めました。

要件定義後の正式見積提示の際に予算制約に直面し、中止の検討も余儀なくされましたが、共有した「ありたい姿」に立ち返ることで、ユーザー体験を損なうことなく、必要な機能に絞り込むことができました。加えて、コープデリ宅配アプリの開発経験から得た知見を最大限活用した結果、プロジェクトは順調に進行しています。

エンジニアが先頭に立って 課題解決に挑んでいく

CTCのエンジニアは、単に技術者に留まらず、顧客やパートナーとの直接的な接点を持つことが求められます。ビジネスニーズの複雑化が進む今、高度な技術力に加え、課題を的確に理解し、コンサルタントやデザイナーといった異業種の専門家と連携した上で解決策を提案できるコミュニケーション能力が不可欠です。エンジニア自身が課題解決の中心に立ち、チームを率いながら顧客に寄り添い、社会に貢献できる価値を創造していく姿勢こそ、これからのエンジニア像だと思います。このような姿勢で挑戦し続けることで、CTCは社会に対してより大きな技術的価値を提供し続ける企業であり続けることができると信じています。

※1 社内に点在する情報を一元管理し、「知の資産」としてナレッジ活用につなげ、会社全体の業務効率化を支援する文書管理システム。

※2 User Interface/User Experienceの略。UIはユーザーとサービスとの接点（レイアウト、ボタン配置、入力フォームなど）を指し、サービスの操作性や機能性にあたる部分。UXはサービスを使用したことで得られるユーザーの体験を指す。UIはUXを向上させる一つの構成要素であり、UIの向上とUXの向上は密接につながっている。

※3 2021年11月に当社と業務資本提携を締結。お客様のDX推進、CTCのソリューション開発において、デザインやUI/UXの領域で協働、共創している。

